

赤ちゃんはどこから生まれてくるかⅡ

- 幼児から「赤ちゃんはどこから生まれるの」と質問された母親の対応 -

○西館有沙
(筑波大学大学院)

高見令英
(国際武道大学)

I. 本研究の目的

本研究では、子どもからの「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」という質問に対する母親の説明と、それに対する子どもの反応について調査し、母親が子どもにどのような説明を行っているのか、また、その時に子どもは「赤ちゃんが生まれる」ということについてどのように感じているのかについて明らかにしたいと考えた。さらに、「赤ん坊が生まれること」について、子どもにどのような説明を行ったらよいのかについても示唆を得たいとした。

II. 方法

(1) 調査対象者と手続き

浜松地区にある私立幼稚園数十園に通う子どもを持つ母親を対象に質問紙調査を実施した。質問紙の回収部数は455部であった。調査の実施時期は2002年9月から12月にかけてであった。

(2) 調査項目

- ①子どもの年齢と性別
- ②子どもから「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」という質問をされたときにどのように答えたか (自由記述式)
- ③母親の回答に対して子どもはどのような反応をしたか (自由記述式)
- ④その後、子どもが「赤ん坊が生まれること」について話をすることはあるか (自由記述式)

III. 結果と考察

(1) 子どもから「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」と質問されたときの母親の説明

子どもから「赤ちゃんはどこから生まれてくるの?」と質問された経験を持つ母親は455名中275名(60%)であった。この質問に対して「どのように説明したか」について尋ねたところ、「生まれてくる場所等について説明した」と回答した母親がほとんどであった(275名中262名, 95%)。この他に、「帝王切開の傷跡を見せた」母親が10名(4%)、「ビデオやテレビで出産シーンを見せた」母親が6名(2%)いた。また、「生まれてくる場所を直接見せた」母親もいた(1名)。

「生まれてくる場所の説明」については、『おなかから』と説明した母親が最も多く(「生まれてくる場所等について説明した」と回答した母親262名中153

名, 58%)、次いで、「赤ん坊が生まれてくる場所についてわかりやすい言葉に置きかえて説明した」母親が69名(26%)、『おなかを切った』と説明した母親が15名(6%)であった。母親が生まれてくる場所の説明に使った「わかりやすい言葉」とは「赤ちゃんの通り道(窓、扉)」、「おしっこうんちをする穴の間」、「生理のときに血が出る場所」、「おまた」、「おしりの近く」等であった。この他に、ごく少数ではあるが「神様が連れてきてくれた」と説明した母親もいた(2名, 1%)。

(2) 母親の説明を聞いたときの子どもの反応

「母親の説明に対する子どもの反応」として最も多かったのは「不思議そうにしていた」(107名, 39%)であった。次いで「さらに興味を持った様子であった」が68名(25%)、「納得した様子であった」61名(22%)、「嬉しそうだった」12名(4%)、「おなかにいたときのことや出産のときのことに話した」10名(4%)、「母親のおなかをさわったりなでたりした」7名(3%)、「母親に『がんばったね』『たいへんだったね』と言った」4名(2%)等であった。

「子どもがさらに興味を持った点」については、「痛かったか」が25名(37%)と最も多く、次いで「ぼく(私)もそうだったのか」が7名(10%)、「赤ん坊が出てくる部位を見たかった」が6名(9%)であった。また、この他に「おしっこ(うんち)と一緒に」、「男の子には赤ちゃんの出てくる穴がないの?」、「赤ちゃんはどうやっておなかの中に入ったの?」といった疑問が子どもから出されている。

(3) その後の「赤ん坊が生まれること」に関する子どもからの問い合わせ

その後の「赤ん坊が生まれること」に関する子どもの話について、「母親に自分を出産したときの様子を尋ねる」(14名, 5%)や「自分が母親のおなかの中に出産したときの様子を尋ねる」(14名, 5%)、「赤ちゃんがほしいと言う」(13名, 5%)といった回答が挙げられた。この他に、『出産は痛いかな』を尋ねる(6名, 2%)という子どももいた。また、最近ではテレビ等が出産シーンを目にする機会が多いために、テレビの出産シーンを見て、母親の説明と違うことに驚いた子どももいた(3名, 1%)。加えて、「自分は母親の産んだ卵から生まれた」、「結婚すれば赤ちゃんができる」等と考えている子どももいた。

IV. まとめ

本調査より、母親から説明を受けたときの子どもの反応は「よくわからない」、「納得できた」、「赤ん坊が生まれることについてさらに興味を持った」、「母親から自分が生まれたということ、母親が自分の誕生を喜んだということを確認し、喜んだ」に大別されることから、出産については、単純な興味で尋ねる場合と、母親の愛情を再確認したくて尋ねる場合があることがわかった。

表1に、子どもが母親の愛情を確認して嬉しそうな反応を示した例を示した。母親が「あなた（子ども）が生まれることを願っていた。あなたが生まれてきて本当に嬉しかった」ということを伝えた場合に、子どもはとても喜ぶことがわかる。そして、その後も弟や知人の出産を楽しみに待つ様子が確認された。

一方、本調査では、母親の説明を聞いた後に「出産は『痛い』『こわい』ものである」と感じた子どもが少なくないことが確認された。表2には、子どもが出産は「痛い」「こわい」と感じた例を示した。母親が出産について「おなかを切る」「痛い」と説明したり傷跡を見せたりしたA群（n=25）と、そのような説明を行

わなかったB群（n=250）にわけて、説明後に出産は「痛い」「こわい」と感じた子ども（A群；15名、B群；19名）と、そのような感情は抱かなかった子ども（A群；10名、B群；231名）の割合に差があるかどうかを検討するために χ^2 検定を行った。その結果、両者の間には有意な差があることが確認された（ χ^2 値=57.59, df=1, $P<0.01$ ）。したがって、母親が「出産はおなかを切る」「痛かった」等と説明した場合には、子どもは出産を「痛い」「こわい」と感じる人が多いことが明らかになった。特に女兒の場合は「自分が出産するときも痛いのか。いやだ」と、自分が出産するときのことを重ね合わせて考えるため、将来の自分の出産に対してネガティブなイメージを持ってしまう可能性があることが示唆された。

V. 参考文献

- 日本子どもを守る会（1999）『子ども白書・1999年版』草土文化。
日本性教育協会（2001）『「若者の性」白書—第5回・青少年の性行動全国調査報告—』、小学館。

表1 子どもが嬉しそうな反応を示した例

母親の説明	母親の説明に対する子どもの反応
「お父さんとお母さんが子どもがほしいと神様をお願いをしたらあなたがまたから出てきたのよ」	とても喜んで、母親の股間に頭を出し入れするしぐさをしながら「生まれてきたの」と言った。その後、人形を使って子どもを出産する真似をしている。
「赤ちゃんの通り道を通して出てくるんだよ。お母さんも痛いけれど赤ちゃんもがんばっているから我慢できるのよ」	真剣に話を聞き、大変なんだと理解したようであった。同時に、母親が大変な思いをして出産し、自分が生まれてきたことを喜んだということが非常に嬉しいようであった。その後、テレビ等で放送されている出産シーンを興味深く見ている。
「お父さんとお母さんが『〇〇君（子どもの名前）のようなかわいい赤ちゃんを授けてください』と神様にお願いして、お母さんのおなかからあなたが生まれたのよ」	「そうか、〇〇みたいな赤ちゃんがほしかったの？ぼくが生まれてきてよかった？」と聞いてきた。その後、妊娠している母親のおなかに向かって話しかけたり、テレビ等で放送している出産シーンを興味深く見て、赤ん坊の誕生を喜んだりしている。
「あなたはお母さんのおなかのなかで育って、10ヶ月くらい経ってから元気にお母さんから生まれたのよ」	「おなか痛かった？」と聞かれたので、「あなたが誕生したことが嬉しくて痛くなかった」と答えたら、嬉しそうに微笑んでいた。

表2 子どもが出産は「痛い」「こわい」と感じた例

	母親の説明	母親の説明に対する子どもの反応
女兒	「あなたはおなかを切って生まれたの。他の赤ちゃんは赤ちゃんの通る道から生まれたの」	「おなか切って痛くなかった？こわいな」と言った。その後、「赤ちゃんがほしいけれど、痛いよね」と話している。
女兒	帝王切開の傷跡を見せながら「おなかからよ」	「痛そうでいやだな」と言っていた。
女兒	「おまたからよ。すごく痛かったよ」	「えー、いやだ。でもがんばってくれてありがとう」と言った。その後、「私も生むときは痛いのかな」と言っていた。
女兒	「おなかを切って生まれてきたんだよ」	「痛かった？」と聞いてきた。
男児	おなかの傷を見せながら「お母さんのおなかのなかだよ」	「痛そう」と言った。